

東京大学運営方針委員の略歴及び選考理由

氏名：Peter Gruss（ピーター グルーす）

現職：沖縄科学技術大学院大学 名誉学長

マックス・プランク学術振興協会 名誉会長

略歴：1974 年 ダルムシュタット工科大学 卒業

1977 年 ルプレヒト・カール大学ハイデルベルク博士課程 修了

1977 年 ドイツがん研究センターウイルス研究所 博士研究助手

1978 年 アメリカ国立衛生研究所（NIH） 博士研究員

1980 年 同 専門コンサルタント

1981 年 同 客員研究員

1982 年 ハイデルベルク大学 微生物学准教授（～1986 年）

1983 年 同分子生物学センター（ZMBH） 理事（～1986 年）

1986 年 マックス・プランク生物物理化学研究所分子細胞生物学部 部長（～2014 年）

1990 年 ゲッティンゲン大学 名誉教授

1997 年 マックス・プランク生物物理化学研究所 所長（～1998 年）

2002 年 マックス・プランク学術振興協会 会長（～2014 年）

2017 年 沖縄科学技術大学院大学 学長（～2022 年）

2023 年 沖縄科学技術大学院大学 特別顧問（イノベーション関連）（～2024 年）

運営方針委員の在任年数：0 年

【選考理由】

Gruss 氏はドイツがん研究センター、アメリカ国立衛生研究所、ハイデルベルク大学、マックス・プランク生物物理化学研究所において研究者として務め、その功績によりライプニッツ賞をはじめとする様々な賞を受賞しており、国際的に著名な研究者である。また、マックス・プランク学術振興協会の会長を長年にわたり務め、海外拠点の設立を行うなど同協会の海外での存在感向上に貢献し、さらに 2017 年からは 5 年間にわたり沖縄科学技術大学院大学（OIST）の学長を務めた。

以上のとおり、Gruss 氏はその経歴から大学の教育研究活動に関する十分な知識・理解とともに大学における国際化やイノベーション等に関する豊富な経験と深い専門知識を有しており、東京大学憲章をはじめとする本学の理念・目標を共有し、世界の公共性に奉仕する東京大学の使命を踏まえ、東京大学と社会のステークホルダーの双方向的な連携を推進し、建設的な対話を通じ、互いに共通する公共的な利益を追求できるよう尽力する意思を有することが認められることから、運営方針委員に相応しいと判断した。

以上